

2014

7

「ワウ」
創刊号

マレー風Wau(ワウ)のように、
色鮮やかで誇り高いマレーシア
の伝統芸能、ごはん、映画に
焦点をあて、専門家がディープ
にご紹介するフリーペーパー

TAKE FREE

Cultural Malaysia Post

WAWA

芸能・映画・ごはん...ディープに伝えるマレーシア文化通信

マレーシア女優

取材・文 / Rie Takatsuka (ODD PICTURES)
写真 / Steve Long (映画「クアラルンプールの夜明け」撮影監督)

Sharifah Amani シャリファ・アマニ

マレー映画 & マレーシア・ニューウェーブ

● 小柄で華奢で小さな顔のかわいらしい女性、シャリファ・アマニ。しかし彼女は、そんな外見からは想像もつかないパワフルな演技と、しっかりと主張を持つマレーシアの著名な実力派女優です。彼女の事を語るためには、最初にマレーシアの映画事情と、マレーシアの女性映画監督、故ヤスミン・アフマドについてお話ししなければなりません。

マレーシア映画界に 可憐に咲いた蘭の花

● シャリファ・アマニは、ヤスミン監督の2作目「セペツ」(細い目)の主役、オーキッド役でデビューしました。マレー系の少女と華人の少

● マレーシアの商業映画は、古くからマレー語のみで作られ、多民族の言語が交差するマレーシア社会の現実を描いた作品は国内での上映の機会が与えられない事もありました。しかし、2000年頃を境に、英語や中国語で作品を作る映画人達が国際映画祭を舞台に活躍するようになります。彼らは「マレーシア・ニューウェーブ」と呼ばれ、その中でも特に高い評価を得たのがヤスミン監督でした。

● マレーシアの商業映画は、古くからマレー語のみで作られ、多民族の言語が交差するマレーシア社会の現実を描いた作品は国内での上映の機会が与えられない事もありました。しかし、2000年頃を境に、英語や中国語で作品を作る映画人達が国際映画祭を舞台に活躍するようになります。彼らは「マレーシア・ニューウェーブ」と呼ばれ、その中でも特に高い評価を得たのがヤスミン監督でした。

シャリファ・アマニ

も、最年少で最優秀女優賞を受賞。その名を不動のものとなりました。

● ところがヤスミンが、2009年の「タレントタイム」(東京国際映画祭にて上映)の制作を最後に急逝してしまいます。その突然の訃報は、マレーシア・ニューウェーブはもちろん、日本のアジア映画ファンにも衝撃を与えました。ヤスミンによって見いだされ、輝きを得たシャリファ・アマニの心中や計り知れないことだったでしょう。実は、ヤスミンは日本人のクォーターということもあり、たいへんな親戚家で、次作を日本で撮る予定もありました。主役はもちろん、シャリファ・アマニでした。

● 2011年、テレビや映画で大忙しのシャリファ・アマニに、日本

年との悲恋を描いた物語です。この作品は2005年、東京国際映画祭で最優秀アジア映画賞を受賞し、ヤスミンとシャリファ・アマニの名前は、日本のアジア映画ファンにも知られる事となります。更に2006年、シャリファ・アマニは、先の「セペツ」でのオーキッドのその後を描いた「グアラ」にも出演。本作品は、マレーシア映画祭で、最優秀作品賞と最優秀脚本賞に輝き、

禁断の役柄で 新境地を

● 「クアラルンプールの夜明け」で、彼女はそれまでの可憐なオーキッドとはまったく

人監督がマレーシア・ニューウェーブの次世代と撮るというインディペンデント映画への出演オファーがかります。多忙なスケジュールの中、彼女がその作品への出演を決めたのは、「日本」というキーワードでした。

● 本作は、2013年、渋谷で開催された「シネ・マレーシア」で上映され、彼女もマレーシアから駆けつけて日本のファンを喜ばせてくれました。近年は、ヤスミンの遺志を胸に、自身も監督に挑戦している

映画「クアラルンプールの夜明け」上映会

監督 細井尊人 & 松山あきひろ トークあり。8月下旬〜9月上旬
渋谷区神宮前2-27-3 ハウス神宮前1F 「CAPSULE」にて開催予定。
詳細は公式HPへ <http://odd-pictures.asia>
観光ではみることのできないリアルなマレーシアをお楽しみください。



ある日、仕事も家族も失った辰巳のもとへマレーシアからのエメールが届く。中には数年前に行方不明になった弟の写真と手紙が入っていた。写真を頼りにマレーシアを彷徨う辰巳が出会ったのは結婚のリンだった...



REDEMPTION NIGHT クアラルンプールの夜明け



ラマダン(断食月)明けのお祭り、ハリラヤ。イスラム教を信仰するマレー系のマレーシア人にとって1年でいちばん重要な行事です。人々は、親しい友を自宅にぶんどり、故郷に帰ったり。

ハリラヤのご馳走

人の集まる場所、そこには必ずごはんがあります。地方や家庭ごとに違うハリラヤのご馳走をマレーシア人に紹介してもらいました。

取材・文 / Oto Furukawa
写真提供 / Ahmad Syahir, Apsa Kadir, Din, Ogawa Hanisah

クランタン
KELANTAN
シャヒル
Ahmad Syahir
システムエンジニア

クランタン州コタバル出身。
クランタン弁を自在に操る風作りの名人。
趣味は料理、バドミントン

ケダ
KEDAH
ハニサ
Ogawa Hanisah
旅行会社勤務

ケダ州メルボット出身。
ラクサは麺から手作りするほどの料理上手。
意外に辛すぎる料理は苦手

ペラ
PERAK
ディン
Khairuddin
システムエンジニア

ペラ州スンカイ出身。
マレーシア料理は好きだが、スレンダーな
体系キープのために甘い飲み物は控えめに

ジョホール
JOHOR
アプサ
Apsa Kadir
金融会社勤務

ジョホール州ムア出身。
周りの人を喜ばせることが大好きな
エンターテイナー。尊敬する人はバカリズム

羊の丸焼き、サテーなど炭火料理は屋外で味わう

上 お祝い料理の羊の丸焼きは、数時間かけて調理をする。炭火でこんがり炙る絶品のおいしさ。ハリラヤの料理はすべて無料で提供される。中まるで屋台だが、各家庭で料理を提供している 下 手作りのお菓子を食べながら、のんびりおしゃべり。頭に被るスカーフと洋服の色をコーディネートし、お酒落を楽しんでいる

手作りでも老舗の味でもハリラヤにはお菓子が大事

上 70歳の叔母はクoppa名人。クoppaとはハリラヤには欠かせない米料理のこと。マレー半島北部では、このように三角の形が主流 中 お菓子は手作り。いつでも、誰でも、自由に食べることができる 下 小麦粉を網状にして油で揚げたクエカラス。ハリラヤや結婚式のとくにいただくお祝い用の伝統菓子

竹筒や薪の火を使った昔からの調理法で作る

上 ハリラヤに欠かせない米料理のクoppaは、薪の火を使い、生米から2~3時間かけて茹でる 中 可愛い姪っ子とディンさん。ハリラヤは親戚が一同に集まるので、子供の成長をみるのも楽しみ 下 竹筒に生のもち米を入れ、炭火で炊くレマン。牛肉の煮込み料理を合わせて、ハリラヤ定番のご馳走になる

家族のテーマ色を決めてハリラヤには洋服を新調

上 アプサさんと甥っ子たち。ハリラヤは家族ごとにテーマカラーがあり、その色に合わせて洋服を新調。この時のカラーは紫 中 米料理クoppa。マレー半島南部では四角い形が主流。天然のヤシの葉を編んで作った容器に米を入れて作る 下 ハリラヤの料理は手作りするのが基本。お菓子も家族みんなで作る



マレーシア料理を教えます

アヤムマサメラ

スパイスたっぷり。トマト煮込みチキン



メラとはマレーシア語で「赤」。マレーシアでも「赤」の料理は縁起がいいとされていて、このアヤムマサメラはハリラヤや結婚式によく食べます。トマトの爽やかな酸味とココナッツミルクのまろやかさ。そこにレモングラスやクローブの香りが広がります。

- 1 塩と片栗粉を軽くまぶした手羽元を素揚げする。
- 2 お湯でふやかした鷹の爪をミキサーにかけて大さじ 1.5 杯分に
- 3 A(玉ねぎ、生姜、にんにく)をミキサーで細かくする。
- 4 レモングラスの根をつぶして香りをだす。
- 5 フライパンに油 100cc をいれ、冷たいうちにシナモンスティック、カルダモン、クローブを入れ、熱しながら香りをだす。
- 6 そこに3とレモングラスを加えて、玉ねぎの水気がなくなるまで火を通す。
- 7 次にホールトマト、2を加えて、油が浮いてきたらココナッツミルクを加える。
- 8 1を加えて強火で絡める。砂糖、塩を加え、味をととのえて完成。

シェフ アスリ

料理歴 15年。「やるなら徹底的に」がモットーのペナン出身のシェフ、アスリさん。高田馬場「大地の木」の元シェフで、現在は新宿にて2ヶ月に1度の料理教室を担当。得意料理は海老麺、フィッシュヘッドカレー。



材料・4人前

- 手羽元 10本
 - 玉ねぎ 半個
 - 生姜 1カケ
 - にんにく 5カケ
- A
- 鷹の爪 大さじ 1.5
 - ホールトマト (トマトの水煮) 300g
 - ココナッツミルク 150cc
 - レモングラス 1本
 - 砂糖 大さじ 1
 - 塩 小さじ 1
 - 油 100cc
 - シナモンスティック 1本
 - クローブ 5~6本
 - カルダモン 3個

マレーシアごはんの会情報

マレーシアごはんの会では、マレーシア人シェフによる料理教室、マレーシア料理店でのイベントなどを開催しています。詳しくはWebサイトにて。

<http://www.malaysiafoodnet.com>





マレーシア芸能文化 光と影の世界ワヤン・クリツ

取材・文・撮影 / Aki Uehara
取材協力 / Sanggar Budaya Geng Wak Long

東西交易の拠点

多民族国家マレーシアは、それぞれの民族が多様な伝統文化を大切にしている国です。古くから東西交易において重要な位置にあったマレー半島は、ジャワ、スマトラ、インド、中国、中東、そして琉球などとも交流がありました。15世紀初め頃に建国されたマラッカ王国の最盛期には多様な言語が飛び交い、アラブ商人との関わりからイスラム化が進みます。その後、ポルトガル、オランダ、英国の植民地を経て、1957年に独立した同国の文化には、その歴史的な影響が大いに反映されています。そんなマレーシアの芸能文化を少しずつ紐解いていきます。今回は、影絵芝居ワヤン・クリツをご紹介します。

ワヤン・クリツ・クランタンよりスリラマ王子と弟ラクスマナ / Photo by Khoo Eng Yow

ワヤン・クリツ

夜の暗闇に浮き立つ光と影。白いスクリーンに細かく細工された人形の影が投影され、左右に揺れ動く、あつという間に別の世界が現れます。マレーシアのワヤン・クリツを印象付けるチャルメラのようなリード楽器スルナイのメロディーとお腹の底に響くような太鼓の音がいつそう観る者を興奮させ、惹き付けます。道化のやり取りに観客がどつと笑つて、スクリーンから目を離さない様子を見ると、今でもみんなワヤンが大好きなのだ嬉しくなります。



ワヤン・クリツ・ゲテツのスクリーン裏の様子

20〜30体を二人で 演じ分ける人形遣い

アジア広範囲で演じられてきた影絵芝居は、国や地域によって上演スタイル、人形の形、音楽も違っています。タイやカンボジアには何人かの遣い手が1メートル以上もある大きな人形を遣う大型の影絵芝居もありますが、マレーシアやインドネシアのワヤン・クリツは、人形遣いがスクリーンの前に座り、物語に登場する人形20体から30体を二人で演じ分けるという小型のものです。

マレーシアには4種類のワヤン・クリツがありました。現在でも上演されているのはクランタン州の「ワヤン・クリツ・シナム（またはクランタン）」とケダ州の「ワヤン・クリツ・ゲテツ」の2種類です。かつてワヤンは農村の生活に深く関わり、儀礼や結婚式、娯楽など様々な目で農閑期には連夜上演が続きました。



クランタンの大きな太鼓ルバナ・ウビ

しかし、テレビや映画が村の生活にも入ってくると、時代の流れとともに上演機会が減りました。また、クランタン州では、1990年代から「イスラム化」政策の中で影絵の上演も制限され、社会的な理由でも演者が減ってきたのです。



ワヤン・クリツ・ゲテツの進化トントンバタムカラオケを歌うシーン

社会風刺やポップソングなど 時代とともに変化する伝統芸能

娯楽も情報も溢れる時代の中で、若者たちの興味を引くために物語、人形、そして音楽も少しずつ変化してきました。特にワヤン・クリツ・ゲテツは、独立記念日前のイベントや、政党キャンペーン、大学の卒業式のフェアなどで上演される機会が多く、社会風刺や交通安全の呼びかけなどをテーマに展開します。そこに登場するのは、携帯電話、カラオケ、バイクにヘルメットなど。人形の装いも現代のマレーシア社会を反映しています。それでも、人形の形や顔は伝統的な特徴を残して作られています。

ワヤンの上演に欠かせないのが音楽を奏でる楽団です。マレーシアでは、太鼓を中心に、大小の銅鑼(ゴング)や小型のシンバル、そしてメロディーを奏でるスルナイなど、6人から8人ほどの編成になっています。伝統曲のほかに、ポップな流行歌を伝統楽器で奏でるなど、音楽でも若者たちを楽しませることを忘れません。

どちらのワヤンも伝統の形をベースに残し、新しい要素を融合させる柔軟性を持ちながら、この芸能を残していく道を探っています。そして、今話題になっているのは、ワヤン・クリツ・クランタンをベースに「スターウォーズ」を題材にした新しいプロジェクトなのです。伝統とどのように折り合いをつけながら発展していくのか、これから注目したいところです。

現在ワヤン・クリツは、首都クアラ Lumpur 近郊の大学や劇場などで演じられることが多く、現地ですぐまく情報をキャッチしなければ上演を観ることは難しいのですが、マレーシアを訪問した際は是非この光と影の世界を体感してみてください。



影絵の人形を手でクランタンの舞踊する小さな人形遣い

【旅するアジア2014】2014年7月4日[金]18:00開演

マレーシアの影絵芝居 Wayang Kulit Kelantan

人形遣い (Dalang) / Roslan Harun (ロスラン・ハリル)
テーマ / Lima Pahlawan 5人の勇者

講師 : 戸加里康子
場所 : 上智大学四ツ谷キャンパス 中央図書館8階
主催 : 上智大学アジア文化研究所
協力 : ITBM (Institut Terhemahan & Buku Malaysia)
ムティアラ・アーツ・プロダクション

ワヤン・クリツ・クランタンの中でも最も重要な生命の木ボロン・プリギン



《コラム》芸能の宝庫 クランタン

マレー半島東海岸の北部に位置するクランタン州は、様々な芸能が培われた芸能の宝庫です。ユネスコの無形文化遺産に登録された歌舞劇「マヨン」や、ワヤン・クリツなどはよく紹介されますが、他にも弦楽器ルバブを用いた弾き語りタリツ・セランピツや、面が直径70センチほどある大きな太鼓ルバナ・ウビ、結婚式などで踊られるタリ・イナイ、この通信のタイトルにもなっている大きなマレー風「ワウ」など、クランタン特有の伝統文化があります。しかし、1990年にイスラム政党が与党となってから、「非イスラム的」とされる要素を含む芸能の上演は禁じられてきました。厳しい制約がある中で、伝統芸能がどのように生き残っているのか、今後も見つけていきます。

クランタンの舞踊タリ・イナイ



ムティアラ・アーツ・プロダクション

- ◎ 東南アジア芸能コーディネーター
- ◎ 芸術文化交流イベント企画・制作
- ◎ マレー語通訳・翻訳



WAU gallery

Penang

「檳榔樹（びんろうじゆ）」の名に由来するペナン島は、「東洋の真珠」とも言われます。古くから交易船の寄港地として栄え、その歴史と文化が色濃く残っています。アザーンが流れるモスクを横切り、線香の白い煙が立ち込める仏教寺院を抜け、ポリウッド音楽と香辛料の香りに満ちたリトルインディアに入り込む。モスク、キリスト教会、ヒンドゥー寺院が並ぶ通りや、コロンニアル様式の街並みは、その多様性と歴史を感じさせます。活気に溢れる街は、食の街としても人気。賑わいのある街も日が暮れるとまた違った装いを見せてくれます。



写真 / Zamree Salleh (ザムリー・サレツ)

(上) Songkok Maker / 親から継いだ小さな店先でいつもミシンをかけているペナン島のソンコック職人。ソンコックとはマレーシアのイスラム男性がかぶる伝統的な帽子のこと。手仕事で作上げたソンコックの艶やかな手触りが素晴らしい。(下左) Jetty morning glow / 早朝6時、まだ静かなペナン島のフェリー乗り場にて。まるで島を燃やすかのような朝焼け。これから街は賑やかになる。(下右) Chinatown at night / 提灯とランプで飾られたペナン島の中華街の一角。光に照らされた歴史ある建物は、昼間とはまったく違った様相を見せる。

<p>マレーチャン レストラン www.malaychan-satu.jp 池袋・西口の老舗マレーシア料理店</p>	<p>ブラヒムジャパン 食品 www.brahimsfoodjapan.com マレーシア老舗トルト食品メーカー</p>	<p>マレーカンポン レストラン www.malaykampung.com マレーシア人シェフがもてなす</p>	<p>オッドピクチャーズ クリエイティブ・プロダクション http://odd-pictures.asia 国内外映像映画制作・マレーシアロケ</p>	<p>WANTED SUPPORTER サポーター</p>
<p>株式会社 肉のズキ本店 肉のズキ 食品 認定ハラール取り扱い店</p>	<p>マレーシア リゾートクラブ 旅行会社 http://mrcj.jp マレーシア、ボルネオ地域専門旅行会社</p>	<p>マレーシア ごはんの会 www.malaysiafoodnet.com 東京でマレーシアごはんを楽しむ会</p>	<p>ムティアラ・アーツ プロダクション mutiara.arts.production@gmail.com 文化交流事業の企画制作、通訳・翻訳業</p>	<p>マレーシア文化通信「WAU」を応援して下さるサポーターを募集しています。1口2万円より。詳細は、下記<HATIMALAYSIA>事務局までお問い合わせください。印刷費などの活動資金として、大切に使用します。</p>

編集後記



古川 音
Oto Furukawa

ライター。首都クアラルンプールに4年滞在した経験を活かし、Webサイト「All About」にてマレーシア記事を執筆。「マレーシアごはんの会」にてイベントや料理教室を主催。
古川音 HP <http://www.otofurukawa.com>
マレーシアごはんの会 HP <http://www.malaysiafoodnet.com>



上原 亜季
Aki Uehara

ムティアラ・アーツ・プロダクション代表。AFS 生として一年間マレーシアの高校に留学。Universiti Sains Malaysia の大学院にてマレーシアの伝統芸能の研究を行い、修士号取得。国際文化会館勤務を経て、現職。東南アジア芸能コーディネーター、イベント企画・制作、記事執筆、マレー語通訳・翻訳。mutiara.arts.production@gmail.com



高塚 利恵
Rie Takatsuka

映像プロダクション、オッドピクチャーズ代表。インディペンデント映画プロデューサー。日本国内にて映像によるプロモーションの企画、撮影。マレーシアの映像制作プロダクション (ODD PICTURES MALAYSIA) と連携した映像・映画製作など。
HP <http://odd-pictures.asia>

映画を撮ってみたい！そう思っていた私に訪れた最初のチャンスは、マレーシアとの共同製作の話でした。映画づくりを通じてふれあったマレーシアの仲間の懐の深さ、思いやり。南国の太陽、いろんな文化が入り交じった賑やかな街、そしておいしいごはん。そんな大好きなマレーシアを皆さんと分かち合える場が欲しくてWAUを立ち上げました！どうぞこれからもお楽しみに！